

## 学生の皆さんへ

### 国際高等教育院長 村中 孝史



京都大学は、1897年の創立以来、学術の発展に多大な貢献をするとともに、各界に数多くの有為の人材を輩出してきました。多くの先輩が、日本で、そして世界で活躍されています。学生の皆さんには、その後を追いかけて、学問研究をさらに発展させ、あるいは、社会の様々な分野で重要な役割を担って活躍することが期待されています。皆さんがその期待に応え、又、ご自身の夢を実現するため、国際高等教育院では、教養・共通教育を通じて、学問の世界への船出を強力にサポートしたいと考えています。

国際高等教育院では、多様な分野に亘る教養科目、数学や物理といった基礎科目、英語や初修外国語といった外国語科目を中心に科目を編成しています。皆さんは、学部を選択して入学したからには、専門分野の勉強を早く始めたいと考えているかもしれませんが、しかし、学問研究を深めるためには、しっかりとした基礎が確立されている必要があります。また、高校までの受け身の勉強とは異なり、大学では自分自身で学ぶことを決めなければなりません。皆さんは、本格的な専門教育に移行する前に、こうした知的営為の転換を果たす必要があります。さらに、自分の選んだ専門分野以外の学問に触れ、多様な問題関心や学問的方法論を理解することも重要です。一見、関係がないように見えても、これらは専門分野の勉強に奥行きと幅をもたせるとともに、皆さんの将来に多くの実りをもたらしてくれることと思います。国際高等教育院の科目は、以上のような考慮に基づいて体系化されています。皆さんが、その趣旨を十分に理解して、積極的に授業に参加されることを期待しています。

国際高等教育院では、英語を使用言語とする授業を多数開講しています。国際化の進展は急速ですし、環境問題、食糧問題、人口問題等、もはや一国だけでは解決できない問題も多数現れています。皆さんが、国際化した社会において学問研究に従事し、あるいは、社会の様々な分野で活躍するためには、しっかりとした国際的視点とともに、十分なコミュニケーション力を身につけることが必要です。英語で提供される科目のほとんどは、外国人の教員によって担当されており、英語によるコミュニケーション力の向上だけでなく、異なる環境で培われた価値観や思考方法の理解にも資することと思います。また、国際高等教育院では従来の英語教育を抜本的に見直し、1年次において、少人数クラスや自習教材を活用したリスニング学習の導入等により、英語4技能のさらなる強化を図った上で、2年次については従来型の英語授業は廃止し、英語を使用言語とする授業のほか、英語力の強化に資すると考えられる科目をE科目として指定し、それらを履修することで、より高度な英語力を修得できるよう配慮しています。皆さんが、このような機会を存分に活用されるよう、期待しています。

前述しましたように、大学では、高校までとは異なり、何を学ぶかは、自分で決めることとなります。このことは、皆さんが大きな自由をもっていることを意味しますが、同時に、自分で決めなければ何も始まらないことも意味します。皆さんの学生生活が有意義なものとなるか否かは、自分次第です。しかし、そうだとすると、学問の発展は急速で、専門化の進展にも著しいものがあるため、自ら学ぶべきことを決めることは、次第に難しくなっています。そのため、国際高等教育院では、皆さんが道に迷うことのないよう、当該分野の基本的な問題意識や考え方が理解できるような科目の充実を図っています。また、ILASセミナーという少人数クラスを多数展開し、皆さんが、直接、教員に問いかける機会も充実させていますし、統合科学という科目では、現代社会における学問の意味を教員とともに考える機会を提供しています。これらも平成28年度からの新しい試みであり、皆さんが積極的に活用されるよう期待しています。

皆さんが、卒業後の進路をすでに決めているのであれば、学ぶべきことは比較的容易に決まるかもしれませんが、たとえそうであっても、又、まだ決めていない場合であればなおさら、しばらくは食欲に様々な学問に挑戦してほしいと思います。たしかに、そのような勉強は、将来の学問研究や職業に直接役立つことはないかもしれませんが、しかし、人間のこと、社会のこと、自然の摂理など、じっくりと考え、悩むことができるのは、学生時代だけだと思います。その時に何をどれだけ考えたかが、将来の自分を上げることだと思います。皆さんが大学で学ぶ時間は、大変貴重な時間です。その時間を無駄にせず、有意義に使ってもらいたいと思います。食欲に、情熱をもって、授業を担当する教員に向かってきて欲しいと考えています。